

# 5月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

29年5月のD I 値は8指標中、5指標が上昇。特に「景況」と「売上高」においては2桁の大幅な上昇となった。残り3指標は下落。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

解体工事業や板金工事業等では、引き続き需要が好調。また、生コンクリート業や貨物運送業等においては、今後の新規需要が見込める事や軽油価格の値下がりにより、収益状況について前向きな声が寄せられた。

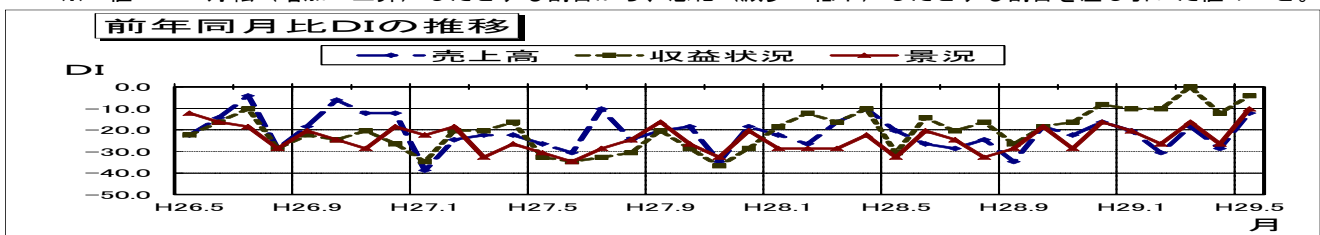
一方、慢性化する労働力不足問題をはじめ、依然として続く原材料高により、商品への価格転嫁が困難である事や大型ショッピングモール開店による客足の減少に嘆く声も寄せられた。

日経平均株価が2万円を回復し、景気は緩やかな回復基調が続いていると言われているものの、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	H28 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月	4月	5月	前月比 増減
景況	-32.7	-20.4	-24.5	-32.7	-28.6	-18.4	-28.6	-16.3	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	16.3
売上高	-20.4	-26.5	-28.6	-24.5	-34.7	-18.4	-22.4	-16.3	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	16.4
収益状況	-30.6	-14.3	-20.4	-16.3	-26.5	-18.4	-16.3	-8.2	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	8.1
販売価格	-10.2	-10.2	2.0	-8.2	-6.1	6.1	2.0	4.1	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-4.0
取引条件	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	4.1	2.0	4.1	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-2.1
資金繰り	-6.1	-10.2	-10.2	-10.2	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	2.0
設備操業度	-33.3	-11.1	-38.9	-33.3	-22.2	-5.6	-11.1	-11.1	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	5.3
雇用人員	-18.4	-20.4	-22.4	-16.3	-16.3	-16.3	-12.2	-16.3	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0

※D I 値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・生産量、出荷量とも前年同月比では、2ヶ月連続で減少。100%割れとなっている。また、主原料のうち国産米、輸入米とも価格は上昇傾向にあり、収益を圧迫している。依然として市場では景気回復の好材料が見つからない状況が続いている。

#### <木材・木製品>

2. 木 材・不需要期でもある為、原木出材量は少なく、価格も弱含みで推移していて売上増は難しい。製材製品についても荷動きが悪く、全般的に未だ厳しい状況で推移している。
3. 木 材・売上高不変。収益状況不変。現在において、木材業界は新築件数よりリフォーム件数が非常に多くなっており、耐震に対する消費者の関心度が徐々に強くなりつつある。

#### <印 刷>

4. 印 刷・5月は休みが多く、売上も上がりにくい月である。日経平均株価が2万円に回復し、米国始め世界の景気は緩やかな拡大が続いている事を横目に、印刷業界は用紙の値上げが待ち受け、需要減少による競争価格にも拍車がかかる。今後益々厳しい状況が予想される。
5. 印 刷・前年同月比では、ほぼ横這い状態である。毎年この時期は閑散期であるが、今年は例年より若干受注減の傾向があるように感じる。この先、用紙の値上げの噂もあり需要に対するネガティブな観測ばかり耳にする。販売価格が下落傾向にある中、用紙の値上げを顧客に製品価格に転嫁できない可能性もある。各社まだまだ収益状況は道半ばであり、思い切った改革が早急に必要である。また、中央会・行政庁への要望事項として、地方の印刷業者は官公需関連の印刷物に依存する場合が多い。地元資本の商工業者からの発注が減り続ける中、雇用の確保と健全経営維持のため、官公需関連の適性価格での発注をお願いしたい。また、官公需において、成果物の納品時に製作途中で使用するデータの提出が求められることが多いが、もう一度知的財産権等を見直して頂きたい。

#### <窯業・土石製品>

6. 生 コ ン・5月の出荷量は昨年同月より減少。連休で営業日数が少ないこともあるかもしれないが出荷量の減少傾向は未だ緩むことはない。

7. 生 コ ン ・ 5月は民間需要に支えられ、出荷数量は対前年同月比11%増加となった。今後においても、民間での工場新設及び関連施設など新規需要を見込める事により、前年数量を上回ると予想される。生コン従事者においても、高齢化、人材不足、後継者不足と指摘され問題となっている。売手市場において待遇面では、4月より、第2と第4土曜日が休日となったが、土曜、日曜、祭日の全休での要望にまだまだ対応できていない。地場中小取引業者においても、土曜休日を取り入れている所は少なく、人材確保を難しくしている。

#### <鉄鋼・金属>

8. 鉄 鋼 ・ 業況は概ね横這い状況にある。引き合い増も見られるが、売上高、設備操業度に大きな動きもなく、全体的に生産動向は弱含みに推移している。景気動向の好転が期待されるところである。
9. ス テ ン レ ス ・ 売上高不変。収益状況不変。国内大手企業は設備投資が増加しているが、中小企業の動きはまだ十分ではない。海外情勢は相変わらず先行きの不安定な状況も続いており、全体としては不透明な状況が継続している。一時的ではあったが、日経平均株価が2万円の突破。これを機会に消費マインドの改善による景気の回復に期待したい。

#### <一般機器>

10. 機 械 金 属 ・ 売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化は見られない。景気は上向きで設備投資への動きが見られるものの、将来に対する先行き不透明感が依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、雇用情勢の好転により、中小企業への人手不足が深刻である。

#### 【非製造業】

#### <卸売業>

11. 食 糧 卸 ・ 売上高不変。収益状況不変。原価が上昇する中、在庫からの売上が大半を占めており、資金繰りのみが好転している状況。29年産は、さらなる価格上昇が見込まれる。
12. 各種商品卸 ・ 売上高増加。収益状況不変。新卒者の人材確保が難しくなっている。

#### <小売業>

13. 機 械 器 具 ・ 天候が良かったため、例年より業績が良かった。梅雨時期が懸念される。
14. ショッピングセンター ・ 昨対比はスーパー93.4%（食品92.9%、衣料96.7%）、専門店96.5%であった。店舗全体では昨対比94.6%という結果であった。専門店の業種では、引き続き食料品と飲食店が好調を維持している。先月同様、食料品、飲食店、大手100円ショップは売上が伸びているが、それ以外は売上に苦戦しており、大手ショッピングモールのオープンが影響していると思われる。設備操業度においては、1店舗退店により低下。雇用人員は増加となった。

15. プロパンガス・売上高増加。収益状況好転。平成29年6月1日から「液石法施行規則, 液石法施行規則の運用・解釈通達の一部改正」が施行されるにあたり、組合員企業に周知するとともに勉強会も開催して業況の好転に繋げていきたい。
16. 電気機器・気温の高い日が続きエアコンに動きが出てきたが、テレビ等のデジタル関連商品は依然として低調である。今夏は昨年より酷暑に期待する。
17. 畳小売業・連休明け後も低調に推移。カビやダニに悩まされるシーズンの前に、防カビ加工の商品が売れ出す。梅雨までの商戦に力を入れたい。

#### <商店街>

18. 徳島市・売上高減少。収益状況不変。例年より夏日となった日が多い。いきなり夏へ移行した感じが強く、需要と供給のバランスがとれない。又、6月より物価上昇となる為、個人消費の持ち直しが鈍くなると予想され活気が下降になるとみられる。
19. 阿南市・売上高不変。収益状況不変。来月から値上げになる商品も多く、現状は厳しい。

#### <サービス業>

20. 土木建築業・売上高は不変であったが、5月は資料作成や新規の工事・業務発注の為、毎年多忙である。今年度は職員の技術不足等で、組合技術員に負担が多くかかっているため、今後残業時間が増えそうだ。
21. 自動車整備・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比+4.5%の1,263台、中古車は+8.3%の443台、合計では+5.4%の1,706台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+16.9%の998台、中古車+0.9%の445台、合計は+11.4%の1,443台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比+8.1%の3,149台と微増。登録自動車（普通車）の販売台数は昨年とほぼ同じだが、先月に引き続き過去5年間では最高の数字をキープしている。軽自動車の販売台数においては、先月より減少したものの、昨年よりは1割ほど多い。6月をピークに夏の間は売上が落ち込む傾向があるので、売上が持ち直す9月までは車検・点検整備などのサービスで収益を上げたいところ。
22. 旅行業・業況に大きな変化はないものの、全体的に低迷している。

#### <建設業>

23. 建設業・売上高減少。収益状況悪化。土木の公共工事の発注が特に少ない。
24. 解体工事業・売上高増加。収益状況好転。民間木造住宅及びコンクリート造構造物等の解体工事については増加傾向。県内全般では、工事案件は斑模様。
25. 板金工事業・業況は不変であったが、仕事量は順調に推移している。
26. 電気工事業・新設住宅口数は542件であり、対前年比105.6%と微増。

#### <運輸業>

27. 貨物運送業・売上高減少。収益状況好転。一般貨物輸送は、連休で営業日数が少なく全般的に低調に推移。一方、生鮮野菜関係は増加した。関東方面では荷動きが減少しているようだ。当月の軽油単価は前月比約2円弱の低下となったが、来月は上昇が予測される。

28. 貨物運送業・青果では人参のシーズンであり、ほぼ例年通りの出荷量であった。ただ、農家の減少に伴い、生産量は減少している。燃料価格は上昇傾向。